

印西中学校



校長 佐藤 雅之
開校 昭和33年
学級数 10(2)
生徒数 315名
職員数 県費 27名
市費 4名

(平成30年5月1日現在)

学校教育目標

自立貢献

1 経営方針

未来を生きる子供たちに「豊かな人間性」と「たくましく生きる力」を養うことは、教育に託された大きな使命である。義務教育の最終段階としての中学校に求められていることは、生涯学習の基礎作りとともに、新しい時代を担う、健康で知性と徳性を備え、変化する社会を主体的に生きる力が身に付くよう、生徒の自立と社会貢献を促す教育である。

2 本校の特色

本校は昭和33年に大森中、木下中、永治中の統合により町立印西中学校として開校し、昨年度、創立60周年を迎えた。市内随一の広い校地には、一年を通して木々の緑と草花があふれ、落ち着いた環境の中で、生徒は明るく元気に生活している。開校以来文武両道を目指し、学習指導と部活動等の課外活動の充実に力を注ぎ、市内の中心校としての役割を果たしてきた。特に学習指導や保健体育、体力づくり等の研究では、国や県から何度も表彰を受けている。また、平成21年度は、永年地域と共に行ってきた美化活動や資源回収活動が高く評価され、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進功労者等表彰事業」で文部科学大臣より表彰された。

卒業生は、1万人を超え、各界の第一線で活躍す

る人材を輩出している。

本年度は、学力向上を図ることに力を入れると共に、一人一人の子供のニーズに応える特別支援教育を充実させるため、“学校生活向上プラン2018”を策定し、組織的、実践的な学校経営を進めている。

3 研修の概要

(1) 研究テーマ

基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、自ら課題を解決しようとする力を育てる学習指導のあり方

(2) 研修内容

- ①主体的・対話的で深い学びの実践
- ②全教科・領域の授業研究を行う（全職員）
- ③同一題材で全校一斉道徳を行う（学期1回）
- ④若年層教員を育てる研修を行う（全職員）
- ⑤不祥事防止研修を行う（全職員）
- ⑥防災教育に関する研修を行う（年1回）



▲合唱コンクール（市文化ホール）

船穂中学校



学校教育目標

夢と希望と感動のある学校

1 経営方針

- (1) 生徒一人一人の理解に徹し、生徒から学び生徒の夢や希望の実現を図る。
- (2) 教育に対する情熱を持ち、わかる授業を追究し生徒の学習意欲を高め、学力の向上を図る。
- (3) 健康で、情操豊かな優しさとたくましさを持った生徒を育てる。
- (4) 保護者、地域とともに歩む、安全で信頼される開かれた学校づくりを推進する。

2 本校の特色

本校は、昭和22年開校以来、創立72年目を数える歴史と伝統のある中学校である。

学区には田畑や田園も多く、緑豊かで、たいへん自然環境に恵まれている。教育目標である「夢と希望と感動のある学校」のもと、地域に根ざし、地域に開かれた、特色ある学校づくりに取り組んでいる。特に「あいさつ運動」は、学校と保護者・地域が一体となり取り組んでおり、本校の良き伝統となっている。また、学校行事への取組は積極的で、感動場面を創出するパワーを抱いている。運動会や合唱コンクールでは、地域の方からも高い評価をいただいている。



校長	山本 正之
開校	昭和22年
学級数	6 (2)
生徒数	161名
職員数	県費24名 市費 2名

(平成30年5月1日現在)

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

自主的・自治的活動のできる生徒の育成
～基礎・基本の徹底と思考力・表現力の育成を通して～

(2) 研修内容

- ① 教科毎に基礎基本を徹底するための方策を明らかにし、「学び合い・話し合い学習」を意図的に行う。
- ② 授業の中で目当てを持たせ、振り返る活動を取り入れることで、思考力を育成する。
- ③ 指導体制の工夫を図り、チームティーチングで学び合い・話し合い学習をサポートし習熟の程度にきめ細かく対応する。
- ④ 「自学」の活用を図り、家庭学習の方法を身につけさせる。



▲朝のあいさつ運動

木刈中学校



校長 石井 秀昭
開校 昭和59年
学級数 16 (2)
生徒数 533名
職員数 県費33名
市費 5名

(平成30年5月1日現在)

学校教育目標

心身ともにたくましく 自ら学び
共に生きる生徒
—笑顔・感動、はつらつ木刈—

1 経営方針

- 授業力の向上を図り、わかる授業、力をつける授業を展開する。
- 心の教育の充実に努め、生徒の道徳的実践力や自治的活動能力の育成を図り、思いやりの共同体をめざす。
- 基本的生活習慣の定着や危険予知能力を高め、健康管理と体力増進の意識を高める。
- 組織力の向上を目指し、学級・学年間の連携を基本に、指導体制を構築する。
- 保護者や地域と連携協力し、地域社会の一員としての自覚を高め責任感を養う。

2 本校の特色

昭和59年に開校し、本年度で35年目を迎える。千葉ニュータウン中央駅の北側に位置し、学区は、北総線と大型ショッピングセンター街を挟んで、南北に広がる。平成29年度から新たに永治地区が学区に加わり、開校当初より学区面積が約4倍に広がった。今後、生徒数が急増加することが予想される。

生徒は学習や部活動に熱心に取り組み、学校行事への参加意欲は旺盛である。「体育祭」や「秋陽祭・合唱コンクール」に全校を挙げて取り組んでいる。

生徒会活動の一つとして、平成13年度生徒総会で制定された生徒目標「笑顔であいさつ・ひびけ歌声・活かそう時間・心で清掃」を掲げ、全校生徒で一生懸命に取り組んでいる。学年末には各部門に秀でた生徒に対して、生徒推薦により「木刈の星賞」を授与している。

また、部活動が盛んで、特に吹奏楽部や陸上部は県のコンクールや大会に頻繁に出場している。

3 研修の概要

(1) 研究主題

「確かな学力を身につけ、
豊かな心を持つ生徒の育成」
～主体的に考え、
行動させるための授業実践を通して～

(2) 研修内容

- ①確かな学力の育成
 - 全教科の授業研修の実施
 - 学び方の基礎・基本の指導の徹底
 - 生徒一人ひとりが思考・表現する場の確保と、きめ細かな個別指導
- ②豊かな心の育成
 - 道徳・特活の授業研修の実施
 - 他者理解と自己を見つめる視点の育成
 - 読書活動の習慣化
 - 学年・学級経営の充実に努め、居心地の良い学校づくり
 - 教育相談の実施

小林中学校



学校教育目標

自ら学び 心豊かでたくましく生きる生徒の育成

【校訓】 一生懸命はかっこいい

1 経営方針

- (1) 生徒一人一人を大切にした、明るく活気ある学校づくり
- (2) 学力向上を目指す学校づくり
- (3) 安全・安心を図れる学校づくり
- (4) 保護者・地域に信頼される学校づくり

2 本校の特色

小林駅を中心とする2小学校区からなり、駅周辺に造成された住宅地に立地している。生徒数は平成11年度をピークに減少期に入っているが、施設設備は充実しており、落ち着いた学校生活を過ごしている。また、地域住民及び保護者の学校への関心は高く、大変協力的である。以下、特色ある教育活動を紹介する。

○学習シラバスの作成と活用

5教科で学習方法のガイダンスとなる学習ラバスを作成し、全校生徒に配布するとともに説明会を実施している。学習方法のポイントを理解し、自主的、持続的に学習しようとする意欲の向上を図っている。



校 長	齋藤 喜一
開 校	平成2年
学級数	6 (2)
生徒数	145名
職員数	県費 18名
	市費 2名

(平成30年5月1日現在)

○地域と連携した防災教育

さわやかコミュニティ推進会議と連携し、地域防災教室を実施して、中学生としてできることを考え、防災意識の高揚を図っている。

○JRC活動

平成16年度にJRC研究推進校の指定を受け、福祉・奉仕活動や人権啓発活動などに持続的に取り組んでいる。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

主体的に学び、協働して課題に取り組む
生徒の育成

(2) 研修内容

①教科授業研修会

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・新学習指導要領移行期の教育課程
- ・基礎的・基本的な知識技能の確実な習得

②道徳教育の充実

- ・「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫・改善
- ・教科化に向けた、評価のありかた
- ・道徳教育映像教材の活用

③特別支援教育

- ・インクルーシブ教育システムの推進
- ・合理的配慮の理解と実践
- ・個に応じた教育内容や方法の工夫

原山中学校



学校教育目標

『夢の実現に向けて豊かな心とたくましく
生きぬく力を持つ生徒の育成』
～SCSEを通して～

1 経営方針

「Safety」 いじめのない安全・安心な学校、
「Courtesy」 挨拶のすばらしい学校、
「Show」 授業・行事の充実した学校、
「Efficiency」 けじめのある学校
SCSEを合言葉に生徒と教員が一丸となり夢のある学校創りを目指している。

2 本校の特色

平成2年に船穂中学校より分離・開校し、創立29周年を迎えた。

学区は、千葉ニュータウンの内野・原山・戸神台の3地区からなる。高層集合住宅に囲まれているが、北総花の丘公園に隣接し緑が多く、水はけの良いグラウンドなど、恵まれた環境にある。

創立以来、生徒の主体的な活動を大切にしており、「挨拶・歌声・行事・奉仕」を生徒会の伝統とし、「挨拶運動」や「無言清掃」など自治的活動に取り組んでいる。年2回の地域ボランティア「全校古紙回収」も定着してきている。



校 長	関根 寿典
開 校	平成2年
学級数	9 (2)
生徒数	276名
職員数	県費 23名 市費 4名

(平成30年5月1日現在)

また、地域との連携を深める教育に主眼に置き、原山中学校区の小学校2校（内野小・原山小）PTAと協力し、年3回の防犯パトロールを地域と強いつながりの中で行い、防災や減災に対する両者の意識や取り組みを近づけ、自助・共助の意識のもとに的確に行動できる人材を育成し、災害に強い学校とまちづくりへの貢献を目指している。



▼全校古紙回収

年2回、生徒全員で中学校区の各家庭の玄関先より古紙(資源)回収を行う。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

「基礎・基本の定着を図り、
主体的に学ぼうとする学習指導の在り方」

(2) 研修内容(概要)

- ①市教研授業研修会(数・英・音・美・特支)
- ②校内授業研修会(国・社・理・保体・技家)
- ③校内授業研修会(道徳・特別活動)
- ④教育課程研究協議会参加
- ⑤印旛地区教育研究集会参加
- ⑥北総教育事務所次長訪問(管理運営)

西の原中学校



学校教育目標

社会に対応し、心豊かにたくましく生きる
若者の育成

1 経営方針

学校は子どもの学習の場であり、人間関係を体験する場でもある。そこで、全職員が「生徒一人一人の良さを引き出し、それぞれが最大限に伸びるように支援する。」とともに、「すべての生徒が生き生きと学校生活を送れるようにする。」ことを念頭に、一体となって指導にあたる。

2 本校の特色

本校は平成6年度に開校し、今年で25年目を迎える。公立中学校では県下に数少ない制服を定めない中学校で、生徒は私服で授業に参加している。校則等もなく、生徒は「西の原中学校の生徒としての『常識と良識』」を意識し、楽しく中学校生活を送っている。

また、学区は静かな住宅地域で、生徒の多くは中高層の集合住宅に住んでいるが、近年は戸建て住宅も増えてきている。ここ数年、地域の開発が急ピッチで進み、学校の周辺にも大型の商業施設がいくつも進出している。

本校は「キャリア教育」の取り組みとして、1年生は「ボランティア活動」をと



校 長	三浦 明久
開 校	平成6年
学級数	15（2）
生徒数	509名
職員数	県費 34名 市費 7名

（平成30年5月1日現在）

した社会参加体験、2年生は職場体験、3年生は自己の生きる道を考える学習を行っている。

また、学力向上にむけて、数学科で少人数学習を実施している。

3 研修の概要

（1）研修テーマ

基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ生徒の育成

（2）研修内容

- ①デジタル校務システム研修
- ②印西市授業研修
- ③学級経営研修
- ④校内授業研修（全教科）
- ⑤特別支援教育研修
- ⑥道徳授業研修（全校道徳）
- ⑦人権教育研修
- ⑧モラルアップ研修
- ⑨アナフィラキシーの理解とエピペン研修
- ⑩いじめ防止対策・教育相談等研修



▲校外学習

印旛中学校



学校教育目標

自ら学ぶ意欲と豊かな心を育み、主体的に行動できる生徒の育成

1 経営方針

- (1) 授業力の向上
- (2) 進路指導の充実
- (3) 生徒指導の充実
- (4) いじめや不適應の解消
- (5) 生徒会、部活動の活性化
- (6) 教育環境の整備
- (7) 学区連携事業の推進
- (8) 教職員の働き方改革の推進

2 本年度の重点目標

- (1) 学力の向上を図る
- (2) 豊かな心を育成する
- (3) 生徒主体の活動を推進する

3 本校の特色

本校生徒367名は、地域の期待と温かい愛情に支えられ、落ち着いた中学校生活を送っている。

体育祭、合唱コンクール、小・中交流会、特別支援学校との交流会等の学校行事に生徒が全力で取り組むことで本校の伝統を作ってきた。

また、本校は生徒の9割以上が部活動に参加し、どの部活動も県大会出場やコンクール・作品展等を目指して、日々努力を重ねている。学校生活では生徒の主体的な行動を尊重し、生徒の活動を生



校長	渡邊 義規
開校	昭和50年
学級数	11(2)
生徒数	367名
職員数	県費 26名 市費 4名

(平成30年5月1日現在)

かした学校づくりを進めている。特に、生徒会では「明るい挨拶、響く歌声、自ら清掃」を3本柱に、生徒会本部、中央委員会、専門委員会の中で、活発な話し合いが行われている。

4 研修の概要

(1) 研究主題

生徒が学習に意欲をもち、主体的に取り組むにはどうすべきか。

(2) 研修内容

- ①評価を工夫し、生徒が具体的な学習課題を見つけられるようにする。
- ②授業形態を工夫して、学習課題を進めることにより、主体的な取組を図る。
- ③授業のまとめやレポートの考察などで思考の流れを意図的につくり、思考力・判断力を身につけることができるようにする。
- ④各教科で言語活動を工夫し、思考力・判断力・表現力を身につけることができるようにする。
- ⑤家庭学習を習慣化して、学力の定着を図る。



▲1学年 校外学習 炊飯訓練

本埜中学校



校長 花安 利章
開校 昭和22年
学級数 3(1)
生徒数 62名
職員数 県費 12名
市費 2名

(平成30年5月1日現在)

学校教育目標

豊かな心を持ち、一人一人の生徒が光りがやく学校

1 経営方針

【目指す生徒像】

- ①学ぶ意欲を持ち、自己表現ができる生徒
- ②目標に向かい、努力・工夫する生徒
- ③勇気を持ち、節度ある行動のとれる生徒
- ④自分も他人も大切にできる生徒
- ⑤よき伝統(挨拶・歌声・清掃)を継承し、次代に伝える生徒(重点)
- ⑥健康に気をつけ、規則正しい生活のできる生徒

2 本校の特色

- ①より多くの教科で、T.T.や個別指導などを取り入れ、きめ細かな指導を展開し、学力の向上を目指している。
- ②キャリア教育の充実(体験)を図っている。
 - ・1年…地域の産業を知る・職業調べ(印西・本埜を知る)
 - ・2年…印西市生き活き体験(職場体験)夢の懸け橋プロジェクト(実際に働いている人から話をうかがう)
 - ・3年…主体的な進路選択を目指して高校調べ、高校訪問、進路決定

- ③よき伝統(あいさつ・歌声・清掃)が日々の活動で実践され、生徒一人一人の誇りとなっている。

・あいさつで心を開く
・歌声で心を結ぶ
・清掃で心を鍛える

委員会活動を中心として、生徒が主体的に実践。

- ④部活動を通して健やかな体と豊かな心の育成をしている。

3 研修の概要

(1) 研修テーマ

生徒一人一人の自主的な学習態度の育成を図り、豊かに表現する能力を養うためにはどのようにしたらよいか～基礎・基本の定着、言語活動の充実を図るための工夫～

(2) 研修内容

- ①基礎・基本を定着させるための指導を教科共通で取り組むことで、学習の理解を深め、主体的・意欲的に学習できるようにさせる。
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に、学力推進委員会を中心に、組織的に取り組むことにより学習成果を期待することができる。
- ③教科・全領域で、また、読書活動を通して「言語活動の充実」に取り組み、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

滝野中学校



学校教育目標

次代を担う、豊かな心とたくましく
生きる力を持った生徒を育成する

1 目指す生徒像

- 一 自ら進んで、粘り強く学習する生徒
- 二 自ら進んで気持ちよくあいさつできる心豊かな生徒
- 三 健康でたくましい体力作りのできる生徒

2 平成30年度の重点目標

- ①全・安心な教育環境・学校作りに努め、健康な身体を育むと共に、防災意識を高め、実践的な安全教育を行う。
- ②「生きる力」を育むために、学力向上に向けて、一人一人に基礎・基本の確実な定着を図るための授業を実践するとともに、応用・発展的な内容も提供する。
- ③心の教育の充実のため、人権意識や共生の考え方に基づいていじめ防止に努め、道徳の時間の充実を図るとともに、生徒会活動・読書活動・体験的な学習を計画的に行う。
- ④若年層教員の育成に全職員で取り組み、授業研修の機会を確保して資質や力量の向上に努める。



校 長 野田 幸一
開 校 平成9年
学級数 8 (2)
生徒数 242名
職員数 県費21名
市費 4名

(平成30年 5月1日現在)

- ⑤学校改善を図るため、学校評価・業績評価を適切に行い、教職員の働き方等に改善を加え、参画型の学校経営・モラールアップを行う。
- ⑥特別支援教育への理解を深め、特別支援学級および通常学級に在籍する支援を要する生徒への個に応じた指導の徹底を図る。
- ⑦家庭・地域社会との連携により、地域の特性を生かした教育を推進するとともに小中の連携による教育効果の向上を目指し、学習規律・生活ルールへの反映、相互授業行事参観等を行い、9年間を見通した子どもの育成を行う。

3 研修計画

①研修テーマ

「基礎基本の理解定着を図り、表現力を養い、高める指導はどうあるべきか」
～わかりやすい授業・ユニバーサルデザインの授業を目指して～

②研修内容

- 若年層の授業力向上を目指し、各教科・領域での授業研修の充実を図る。
- 個や小グループ、集団などの学習形態を適切に用い、学習内容に合わせた言語活動を工夫する。
- どの生徒にもわかりやすい指示や資料の提示を工夫する。